

栞原孝子看護部長退官によせて

退官にあたって

看護部長として歩んできた日々を振り返って

看護部長 栞原孝子

私は平成14年3月で停年退官となります。昭和42年6月に歯学部附属病院が開設し、同年9月に新人看護師として採用されてから34年を超えました。最近では病院の創設期の思い出を語り合える人々も少なくなり寂しい思いがします。

平成3年4月から今日まで11年間看護部長として職責を果たしてきました。10年一昔といいますが、振り返ってみますと、時の流れは速かったというのが実感です。

師長会議の記録を読み返してみますと、病院の動きや看護部の動きがよくわかります。看護部長として何をしてきたのかも読み取ることができません。看護部長として何をしてきたのか、看護部がどう変化したかを振り返ってみました。

私が看護部長になって取り組んだ課題は、歯学部附属病院の看護をもっと充実させるために看護師は何をしていくかということでした。外来診療を重視している病院でありますので、まず外来看護の質を上げていくこと抜きにしては前に進んでいけないと考えました。看護師たちは、歯科疾患で来院する多くの患者さん（その中でも特に有病患者、高齢者、乳幼児）に対して、安全に安楽に歯科治療が行われるような看護援助をすることによって、やりがいある仕事をしているという誇りを持ちたいと思っていました。外来師長が中心になり外来看護検討会を立ち上げて、外来看護の指針（看護度の活用）や外来看護の記録を整えることを行いました。それが発端となって、看護師を指導する立場にある私は、看護師長や副看護師長の研修（勉強会）を継続して行うことが効果的であるということがわかりました。このことが看護師長や副看護師長の役割認識になり、積極的に物事

に取り組む姿勢や問題を解決していく意欲（力）、自信につながってきたと思っています。

また看護師の勤務体制（夜勤体制、外来勤務体制）について見直しをしました。夜勤体制（2交替制勤務）については看護部内でワーキンググループを作り1年がかりで検討を行いました。その結果、平成8年4月から2交替勤務（夜勤3人体制、日勤8時間と夜勤16時間、夜勤回数月4～4.5回）の試行に入り、平成10年3月から本実施となりました。試行期間中は、病院運営委員会の先生方からもご指導をいただきましたし、事務局人事課にも検討の経過報告書を提出しました。また多くの看護師に16時間の夜勤を体験してもらうために配置換えを1年間で数回行って2交替制勤務に対するアンケート調査、疲労度調査等を行い、その結果を踏まえて実施へ移行しました。

次に流動的勤務体制に取り組みました。始めは外来部門だけの勤務体制と考えておりましたが、滅菌材料室部門では手術室と兼務のために長時間手術の当日、翌日の勤務に支障が出ることもあり、外来部門に限定しないで日勤帯の勤務全般に適応



写真は私を支え続けてくれた看護師長達と一緒に撮ったものです

するものとして検討しました。全体を3つの看護単位（外来部門、病棟部門、滅菌材料室部門）として、3人のリーダー師長を決めて繁忙時、看護師が年休・病休・出張等で手薄になる日や逆に予約患者さんの予約の少ない日等に、看護師が必要に応じて移動することができるという体制です。従来の勤務は看護師の配置換えがなければ移動しない体制であり、看護師が少なくて困っているのに“がんばろう”という体質もありましたので、この勤務は要請されれば誰でも動けるようにする体制作り、助け合える体制作りでもありました。また看護師の増員がない状況や看護師定員削減の中での一つの選択でもありました。またフレックスの考えも取り入れて診療時間の延長にも対応できるものとしています。看護師が移動する場合には、従来は看護部長が応援勤務の指示（命令）を出していたのですが、看護師長達が勤務看護師数や診療の状況についての情報交換を行い、リーダー婦長が他のリーダー婦長に看護師の移動を依頼し、誰が移動したかを看護部長へ報告をします。看護師は、移動するために各診療科の看護業務内容を知らなければならないので積極的に学ぶ姿勢が見られました。診療科によって看護業務のやり方が違うことや疑問に思うこと、提案等問題意識も当然でできて看護基準や看護手順の見直しにもつながっていきました。

滅菌材料室部門では、感染防止の面から診療用

トレイやコップをディスポ化したことで診療器具の滅菌方法の改善や共通化、診療器具のセット化、診療器材の定数供給等が積極的にすすめられるようになり、それに伴って入院・外来での看護業務全体の見直しや改善につながってきました。

平成10年以降、看護師1人1人が1つの委員会メンバーとなって活動しようと、既存の4委員会を13の委員会に細分化しました。これは看護部内の活性化につながり病院組織の一員である意識を高めることにもなりました。各委員会ではリーダーを中心に1年間の到達目標を決めて活動を継続しております。今までの成果としては、看護業務基準・手順の作成、看護研究の指導支援（院内・院外発表の推進）、電話対応マニュアル作成、看護部ニュース発行、看護師のユニフォームの検討、ナースキャップの廃止、予想される医療事故と予防対策の作成、看護師休憩室の改修に向けての検討、看護記録の検討、病院環境整備・点検、医療廃棄物分類方法作成等があります。以上のように多くの成果が上がってきていますし、今後もずっと続けていってほしいと願っています。

最後になりましたが、教職員のみなさまには大変お世話になり、ありがとうございました。心から感謝を申し上げます。今後も看護部へのご理解ある温かいご支援をお願いし、病院のますますのご発展をお祈りしております。

栞原孝子看護部長退官に寄せて

附属病院長 河野正司

栞原部長さんのおかれましては、大学の定めにより3月末日を持ってご退官されます。長い間新潟大学のためにお働き下さいましてありがとうございました。

栞原看護部長さんには、昭和42年より34年有余の長い間歯学部附属病院看護部の中で師長さんとして、また平成3年4月からは歯学部附属病院看護部長さんとして、11年の長きにわたり看護部の先頭となって歯学部附属病院のために、患者さんのために、やさしい、暖かな看護を自ら実行して

下さいました。

この間、病院の診療科再編成と患者さんの来院者数の増加により、効率的な看護体制を構築することが求められてきました。このような病院を取り巻く環境の変化に伴い、看護体制を機能的に変革して、看護体制における担当範囲を1診療科に限定するのではなく、診療科のグループを構成して、このグループを対象に看護体制を組む構想を新たに作られ、それを実行に移されました。

このシステムは画期的なものであり、患者数の

増加に対応して看護レベルの向上を果たせるものとなり、歯学部附属病院の看護業務改革を先頭に立って推進してくださいました。

さらにまた、歯科衛生士の各診療科への配置計画の実行にあたっては、看護師業務と歯科衛生士業務の棲み分けを大変に機能的に行ってください、患者さんへのサービスを一段と向上させることが出来ました。これらのお働きに重ねて厚く感謝申し上げます。

この様に改革期にある歯学部附属病院におい

て、患者さん中心の医療が実践出来るようにと、看護部を変革してくださった桑原部長さんを、大学の定めによりお送り申し上げますことは、歯学部附属病院にとって大変に残念なことであります。

今後とも歯学部附属病院を外部からお支え下さいまして、そして歯科医療界にあたたかなご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。ご健勝を祈念申し上げます。

桑原看護部長ご退官によせて

看護部看護師長 二 瓶 恵 子

我が看護部の桑原孝子看護部長は、平成14年3月末日をもって、定年によりご退官されます。桑原看護部長は、昭和42年9月に新潟大学歯学部附属病院看護師に採用され、昭和46年10月に看護師長に、平成3年4月に看護部長に昇任されております。

桑原看護部長は、昭和57年歯学部附属病院外来部門増築に際し、保存科師長として、総合診療室（総合診療部の前身）の整備充実にも貢献されておられます。中央手術室・中央材料室師長時には、看護業務改善の為に器械器具のセット化や、環境や安全を考えてガス滅菌に関して改善を行ってこられたそうです。また、病室師長、小児歯科師長、補綴科（現義歯入れ歯・冠ブリッジ診療室）師長も歴任し歯学部附属病院の病棟・外来運営にも力を発揮されてこられました。

平成3年看護部長に昇任後は、看護部組織を統率し、病院の理念に基づき、より質の高い主体性のある看護を心掛け、全看護職員を対象とした問題解決技法等の研修会を開始する等、看護教育を徹底し、看護部門の資質の向上に努められました。師長・副師長に対しても、研修の機会を設け看護部門全体のレベルアップにつなげてこられました。

また、外来看護師の業務量を考え、看護業務の見直しを実施し、流動性を取入れた外来看護師の配置方法を構築し実施されました。

これらに伴い、滅菌材料業務の一部を外注委託

にし、看護業務の充実も図ってこられました。この様に、看護業務の効率化を図ると同時に、安全管理には特に力を注ぎ、看護部環境整備委員会、感染防止委員会、医療事故防止委員会等病院の他部門に先駆けて発足させ、危機管理体制における連絡網の整備を中心となって行い、事故防止に取り組みされてこられました。

また、医療界において院内感染の問題となったMRSA等の感染防止対策や歯科診療特有の切削粉塵対策および機能面からナースキャップを廃止し、ユニホームの改善等従来からの方式にとらわれず改革にもとり組みされてこられました。

特にこの数年、看護界いや日本全体が昏迷、改革の波の中、看護部長として力を発揮してこられたと思います。私どもとしては、もう少し力を貸していただきたいところですが、定年と言う事ですので、有難うございましたと言わせていただきます。これから、看護部いや歯学部附属病院が乗りきらなくてはいけない試練は、数多くあるのには目に見えております。歯学部附属病院諸先生方、職員の方々に協力していただき、これらの方々と力を合わせ、歯学部附属病院の患者さまの為に残された看護師達で乗りきる覚悟ですので、見守り、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後に、桑原看護部長にこれまでのご指導に深く感謝すると共に、看護婦一同ご健康を心から願っております。